



To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,
 OSAKA, JAPAN

2010年4月 No.335
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2009~2010)	
センテニアルクラブ会長	: 『Onward Centennial, again』
東京セントラルクラブ会長	: 『一つとなって YMCAへ』
国際会長	: 『一つとなる力』
アジア会長	: 『夢みるアジア、愛するアジア』
西日本区理事	: 『すべてのいのちを大切に』
中西部部長	: 『元気はつらつ中西部』

クラブ役員	Officers
会 長	: 山中 秀男
副会長	: 新保 正秋
書 記	: 石津 雅人
会 計	: 中村 幸枝
メネット会長	: 山中 ちあき
Y連絡職員	: 鍛治田 千文

Biblical Message of April

しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。

(ルカによる福音書 2:19)

April Club Meeting

『YMCA サービス/ASF』

4 月 第 1 例 会

日時：2010年4月21日(水) 18:30~20:30
 場所：ホテルグランヴィア大阪

司会：松浦 孝次君

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. 開会点鐘 | 山中 秀男 会長 |
| 2. ワイズソング | — 同 |
| 3. 聖句朗読 | 石津 雅人 君 |
| 4. ゲスト・ビジター紹介 | 山中 秀男 会長 |
| 5. 今月の強調活動 | 松浦 孝次 君 |
| 6. 連絡・報告・ニュース | 各メンバー |
| 7. 晚餐 | — 同 |
| 8. 卓話「20歳の原点~今を生きる若者の風景」(松浦) | 岩坂二規・関学准教授 |
| 9. 誕生祝い・ニコニコ献金 | — 同 |
| 10. 閉会点鐘 | 山中 秀男 会長 |

4 月 第 2 例 会

日時：2010年4月28日(水) 18:00~20:30
 場所：大阪YMCA土佐堀会館4F

5月入会予定の高橋裕也さんのオリエンテーションがあるので、通常より30分早めます。

4月お誕生日：隅田メネット(13日)

司会者は500円程度のお菓子をゲストの分も含めご用意願います。

例会担当

1班：大村、新保、島中、山田、三浦、山中の各メン

テディベア、私の場合

中村 幸枝

14年も前のことです。娘が小学5年生の時、学校に行けない時期が少しありました。重い気持の日々、家での楽しみ事を見つけてあげたいとの思いで、母子して本を見ながらテディベアを1体作りしました。悪戦苦闘の末出来上がったものは、手垢で汚れたくたで、アンティークベアのようになっていました。でもその熊は制作途中で、不条理な現状に対する娘の思いを全部吸収してくれていたようです。間もなく元気な学校生活に戻ることができ、以来その熊は名こそありませんが、我が家族となりました。

あまりにも不細工なその熊を作ってしまった反省から可愛いテディベアを作るにはどうしたら良いか?という疑問が生じてしまいました。それから私は作り続け、この春は98体目を制作中です。

2、3年前から月に2回、我が家を提供し無償のテディベア教室を開いています。私一人で作っているより、お仲間がいると何倍も楽しく意味深いのです。絵本の読み聞かせの時に使いたいと作る人、50歳の自分のために作る人。結婚式を飾ったテディベアもあれば、天国に御一緒したテディベアもありました。それぞれの「人の思い」を聞きながら・・・今日も1針1針進めます。

(次回は鍛治田千文さんです)

【クラブ統計 Statistics】

2010年3月	種 別	第1例会	第2例会	BFポイント		ニコニコ献金
在籍会員 18名	メ ン	14名	5名	3月 現切現	120g 0円 665g 0円	3月: 18,600円 累 計: 178,600円
例会出席 14名	メネット	8名	1名			
うちメーキャップ	ビジター	0名	0名			
0名	ゲ ス ト	3名	0名			
出席率 77.8%	合 計	25名	6名			

3 月 第 2 例 会

日 時：2010年3月24日（水）18:00～20:00

場 所：大阪YMCA会館504号室

出席者：石津、鍛治田、中村（茂）、松浦、山中の各メン。
山中メネット。

報告/協議事項

1. 今月はなぜか出席者が6名、しかし実のある話ができた。
2. 冒頭、第2回中西部会（9/18）実行委員会をもった。
部会で提供する「弁当候補」を各自持ち寄って品定めをした。その決定は追って。スピーカー候補について意見交換し、おおよその結論をだした。有力候補者に折衝を続ける。
部会の広報を、スピーカー決定次第開始する。広報ツール（チラシなど）作成は石津メンにお願いする。6～7月に各クラブへ手分けして出かけ広報活動を行う。
3. 3月例会の反省：植松正道さんは大変な勉強家で、オーストラリアの法制も詳しい方だが、われわれが理解しやすいよう映像を中心に話しされた。なお、同氏はハワイアン・フラダンスに造詣が深く、今夏8月の納涼例会にそのメンバーの出演を乞うのもよいのではないか（中村メン提案）
4. 4月第1例会の担当は松浦メン。卓話は 岩坂二規氏（関西学院大学准教授）「二十歳の原点～今を生きる若者の風景」
5. 4月第2例会は、18時から高橋裕也さんの入会オリエンテーションを行う。みなさん多数お越しください。
6. 5月例会の担当は、福永、田中、三浦メン、卓話は？6月例会の担当は山中会長で、高橋裕也メン、メネットの卓話。
7. 松浦から 次期中西部長として、1年間の行事予定 EMCの状況 IBC、DBCについて資料に基づき説明があった。
8. 次期・新保会長のもとの方針設定や活動体制をそろそろ立ち上げねばならないことを確認した。また、会員20名を目標にしようではないか。
9. 今後の大会 みんなで行こう！！
 - ・西日本区大会6/12～13 広島国際会議場（広島Y's）
 - ・国際大会 8/5～8 パシフィコ横浜

（松浦 孝次）

Club Activities (March, 2010)

On March 18, the club's March meeting was held at the Hotel Granvia Osaka, with a total of 25 Y's men, Y's menettes, and guests in attendance.

With it's emphasis on EF/JWF activities this month, Y's man SHIGETAKA NAKAMURA briefed the meaning and purpose of the programs.

Y's man KAN TANIKAWA and SAM FUJIWARA respectively reported their recent visit to Hong Kong and Hawaii where they had received warm reception by the members of Hong Kong's Bauhinia Club and Hawaii's Nuuanu Club. KAN TANIKAWA also distributed gifts received from the Hong Kong club among participants.

The highlight of the March meeting was the speech made by Mr. MASAMICHI UEMATSU, aged care manager at the Momoyama Nursing Home in Osaka. Showing interesting pictures of the advanced systems and facilities in Australia, he enthusiastically spoke about the current situation of the nursing homes for the aged in "Down under" from his experiences.

Yen 18,600 was collected for the club's Niko-Niko (smiling) fund..

マリアの心は神やイエスとともに生きられたので、決して恐れや不安を抱かず、神や人々に奉仕することを厭わなかったのです。私たちもマリアの生き方を単に伝えるだけでなく、相手の立場に立って考えて行動し、それが喜んでもらえることにつながるということを身をもって学んで生きたいと思います。

聖句選 コメント：石津雅人
（次回は、福永滋子さんです）

3 月 第 1 例 会

と き：10年3月17日（水）18:00～20:30

ところ：ホテルグランヴィア大阪21階

西日本区大会に向けて、平和の千羽の折鶴を作るために3月例会は、いつもよりも30分早めに集合。午後6時半、開会点鐘後、まず山中秀男会長から鍛治田千文・YMCA連絡職員に、ハイチ救援募金などの寄金が手渡されました。次に谷川寛さん、藤原正巳さんから、香港のポヒニアクラブ、ハワイのヌアヌクラブの訪問、また岡本剛介さんから3月9日感謝祭の報告がありました。

晩さん後、本日のメインスピーチは、高齢者福祉総合施設の介護職をされている植松正道さんによる「オーストラリアの老人ホームの事情」。



卓話をされる植松正道氏

少子高齢社会の日本が進むべきモデルとなるオーストラリアは「中福祉中負担の国」と植松さん。1970年後半の大不況を経験したオーストラリアは、これまでの大規模施設から、福祉に力を入れるようになり、高齢者の意思を尊重し、在宅ケアに力を入れるようになったそうです。

ホテルのような美しい建物。カラーコーディネートされた室内。そこにきれいな衣服を身に付けたお年寄りの笑顔が映し出されます。老人ホームの至る所に介護や認知症の人たちのための工夫が施されています。お年寄りの残存能力を最大限に生かしながら、豊かな老後を過ごすお年寄りの生活ぶりが、何とも私たちにほらやましく感じられました。

（中村 茂高）

中西部ホームページ

<http://ys-chuseibu.com/>

大阪センターアルクラブホームページ

<http://m-ishizu.com/ys/>

谷川 寛

谷川 寛

久しぶりに訪れた旧正月明けの香港は、相変わらず活気がありました。いろんな経済指標の中に、世界の競争力ランキングという指標があります。世界の50ヵ国・地域の潜在競争力をまとめたもので、2009年のトップは5年連続で香港でした。日本はなんと14位に後退しました。この競争力とは今後10年間にどれだけのモノとサービスを創りだす素地があるかを測った指数です。従って、香港はそのような力を秘めていることを現しています。香港の人々は、実によく働き、かつよく遊びます。旧正月の休みの間は、オフィスはもぬけの殻。海外に出かけたり、知人、親戚が集まりで正月を祝い、爆竹をならして大騒ぎでした。



香港・ボヒニアクラブの会員たちと

さて、その旧正月明けの香港で、アジア太平洋 YMCA 同盟の常務委員会がありました。会議の前日に、会いたい旨、私たちのブラザークラブ、ボヒニア・クラブの会長、Pauline Ngさんに事前連絡しておきました。当日、10名の会員が集まり、歓迎の夕食会を開いてくれました。会長の Pauline さんは比較的新しい会員です。高校の先生をしていたそうで、目下、日本語を勉強中です。私に対する第一声は日本語で「はじめまして...」でした。石津さんが準備してくれた当センテナル活動を示す写真を多数持参しましたが、わがクラブの活動について、みなさんから多くの質問がありました。持参したスナップ写真は効果的でした。Pauline さんは横浜の国際大会に参加します。また、上記 YMCA の会議の最後の日の朝、地元香港のワイズの人々と、海外から参加している YMCA 関係者との朝食会がありました。この席で、夏の横浜大会に参加する、と意思表示をしている香港のワイズメンが多数おりました。私たちも参加して、歓迎してあげようではありませんか。上の写真は、彼女らが用意してくれた私たちのクラブへのお土産を受け取っているところです。



ドライブの後、エジプトのカイロに向かいました。飛行機から見たエジプトの大地は、ページユの砂地が地平線まで広がり、その砂漠を二つに切り裂くようにナイル河が南北に貫いて流れています。ドライブ空港がシャンデルリアで輝き、大理石を敷詰めた最新設備の空港であったのに対して、到着したエジプトの空港は照明も暗く汚れた感じでした。観光を主な収入源とするこの国の玄関にしてはみずばらしい感じがしました。誰かが、カイロはうす汚い、と書いていましたが、私も後で同じような印象をもちました。

さて、古代エジプトの世界は、初期王朝が成立してからローマの支配下に入るまで、およそ3000年の長さにわたって繁栄しました。そのすべてが紀元前の話です。ユダヤ教も、イスラムも、そしてキリスト教も生まれていませんでした。その古代エジプト文明の中で、最もよく知られたファラオ(王)といえば、やはりあのツタンカーメン王でしょう。この王様のマスクに魅せられてエジプト・カイロの国立考古学博物館を訪れました。残念ながら、館内にカメラの持ち込みは禁止。下の絵葉書で勘弁してください。黄金のマスクを収めたケースの周りには人ばかりでした。最近の新聞が、このツタンカーメンの死因をDNA鑑定の結果、マラリアであると報じていました。

そして、ピラミッド、スフィンクスなどの数々の遺跡を見て回って古代のエジプト文明の凄さを知りました。(大英博物館のエジプト美術コレクションも立派ですが、やはりご本家にはかないません。)古代エジプトは、ナイルの恵みに支えられて経済は発展、芸術も開花しました。しかし、その後は衰退に向かいます。エジプト文明はまさに、ナイル河の毎年の氾濫によってもたらされたわけですが、この洪水は、日本の洪水とまったく違うことを知りました。毎年初夏になるとゆっくり増水し、秋になるとピークを迎えた後、10月ごろになって、やっと水が引いて元に戻るそうです。毎年の氾濫が上流の肥よくな土壌を運び、生命を育む源となりました。20世紀になってアスワンハイダムが完成するまで、この氾濫は続きました。



現在のエジプト・カイロ。現地の何人かの人に主な産業は何か、とたずねますと、農業と観光という答えがかえってきました。観光地には観光客目当ての物売りが群がっていました。農産物以外、輸出競争力ある産業はなさそうです。最近、労賃の安さに目をつけた中国が縫製工場を始めました。EUにはすでにエジプト製の繊維製品が出回っているそうです。カイロの街はほこりが舞い、交通渋滞もひどく、かつての繁栄、栄光の面影は見当たりませんでした。

YMCA ニュース

早天祈祷会

日 時 4月16日(金)7:30~8:30

場 所 大阪YMCA会館チャペル

証 し 内田望司祭

YMCA 会員大会

日 程 5月29日(土) ご予定にお加えください。

春。表コミにはお蔭様でたくさんの希望者があり、36名の1年生でスタートしました。どの子も様々な歴史を持ち、新たに希望を持ってYMCAに来ました。「やりがいのある」

生徒達ばかりです。引き続きどうぞご支援ください。

西日本区大会のための折鶴づくり。カウンターにしていると生徒達が時間を見つけて、折ってくれています。このことを通して少しでも「平和」のことを考えてほしいと願っています。

大阪YMCA国際専門学校 高等課程

表現・コミュニケーション学科

鍛治田千文 550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6

Tel 06(6441)1123 Fax 06(6443)7544

ニコニコ・メッセージ
【Messages from the Club Members】

ゲストからのメッセージ

2 回目の参加となります。毎回有意義な話で夫婦共々見識を深める事ができ感謝です。(高橋 裕也)

会員からのメッセージ

若い方の出席で明るく楽しい例会となりました。今後この雰囲気を楽しみたいものです。(石津 雅人)

植松さんのオーストラリアの話は大変興味深かった。(大村 肇)

私の祖母も認知症です。母親が介護で色々大変そうです。これからの時代は高齢者の問題、それを支えるのは出生率を上げることかもしれませんね。私は結婚後は3人を目標に子供を作れたらいいと思いました。(岡本 剛介)

表コミ3期生、無事卒業しました。全員進路が決まりました。いつもお心配り、ご支援ありがとうございます！(鍛治田 千文)

高橋夫妻の入会たいへん嬉しく思います。センテニアルの新しい風が吹けばと思います。(坂本 哲朗)

高橋夫妻の入会の可能性が大きいと伺い大変嬉しいです。(坂本 千春)

今日はオーストラリアの老人ホームの様子をお話いただき、羨ましく思いました。施設の環境の良さ、お部屋もカラフルで素敵で何より公の為費用もお安い様でした。ありがとうございました。(隅田 恵子)

たくさんの参加者があり楽しい例会でした。(谷川 寛)

今日は私の誕生日、この日に例会に出席できてHappy Birthdayの歌を皆さんに歌って頂いて感激です。卓話「オーストラリアの老人ホーム事情」は身近なことになっている身には大変興味深い話でした。(谷川 裕美子)

親知らず歯を明日抜きます。いたくありませんように。

(中村 幸枝)

年相応の白内障で左右それぞれ手術を無事終了。この世はこんなにすばらしかったのかと驚きました。お蔭で色彩感覚を一新しました。感謝です。(福永 嘉彦)

少子化問題、高齢者問題と、私たちもその中の一人と思うと今日のお話はとても勉強になりました。段々とヨタヨタとしてきましたが例会にはなるべく出席したいと思っている今日この頃です。(福永 滋子)

2月は休会致しましたので、久しぶりに例会に出席した様な気分です。見知らぬビジターも出席されており、いっぴくに活気に溢れた例会でした。今後は体調管理に気をつけクラブ活動に邁進したいと思っております。(藤原 正巳)

植松さんのオーストラリア事情、参考になりました。土地の広さが強みですね。高橋夫妻、ご来会大歓迎です。

(松浦 孝次)

オーストラリアの老人ホームは明るく家庭にいる様な感じでとても良いと思いました。食事のサービスやセラピー等よく考えられていると思いました。(松浦 和子)

春3月華やかな雰囲気が良かったです。若い人が3名出席で、その影響でしょうか。(三浦 直之)

植松正道さんの卓話、内容充実しており勉強になりました。長男のメネット田口裕子、今後半のNHK名曲アルバムで蘇州夜曲をハーブで弾いています。(山中 秀男)

わがセンテニアルクラブも例会の度に若くて新しい顔ぶれにお会いする様に感じます。この方々が「次々入会して下さる」と思うとセンテニアルの発展が期待できます。楽しくなりますネ、バンザイ...。(山田 孝彦)

折り鶴を折るのに一生懸命になってしまいました。(山村 利子)

3 月 B F 報 告

山田 (50 g) 山中 (40 g) 谷川 (10 g)
福永 (10 g) 松浦 (10 g) 計120 g



例会前に折り鶴を折るメネットさんたち

後 記

植松さんの話を少し補足しますと、1970年代のオーストラリアは23年ぶりに労働党政権が誕生し社会、経済あらゆる分野の改革が推進された出発点となり、それまで年金は貧困者優先など限定、選別的なものから一般、普遍的な社会保障へと変わります。

もうひとつの転機、1985年です。在宅・地域ケア事業、いわゆるHACC(ハック)法が制定され、HACCプログラムが高齢者と障害者に対して行われるようになります。在宅を中心としながらも、状況に応じ施設ケアに移行もします。このプログラムは植松さんの話にありました。

私も3年前、オーストラリア・クインズランド州の高次脳機能障害の地域ケアを見学する機会があり、植松さんの写真で見た同様の、きれいな施設を見て、やはり高齢者の施設も同じなのだと感じました。

日本では、交通事故で瀕死の重傷を負った人が救急救命で助かっても、その後のケアは十分ではありません。地域の連携のなさ、ボランティアの脆弱さは今の日本が抱えている問題です。その点、私が見たクインズランド州ブリスベン市での見事な地域の総合的なサービスは、うらやましかぎりでした。

つい最近、私の両親が同時期に別々の病院に入院した時、日常生活というものは、いとも簡単に壊れるものだというのを感じました。日本も経費削減のため、脱施設、在宅ケアの方向をめざしていますが、崩壊とも言われる地域社会の再構築が、今、少子高齢社会を迎える時に必要と痛切に感じます。

(中村 茂高)